

## 5. 研究の成果と課題

### (1) 研究の成果

① 他教科等との関連や生活科と総合的な学習の時間のつながりを明確にして単元構成を見直すとともに、各教科等の知識や技能等を主体的に繰り返し活用できる展開を工夫した。そのことにより児童の確かな学びを生み出すことができた。

大蔵プランを基に、生活科では他教科との関連、総合的な学習の時間では生活科や前学年で学習してきたこととのつながりや他教科との関連を明確にして、学習に取り組んだ。その結果、生活科や総合的な学習の時間に対して、95%の児童が「学習が(とても)楽しい」と感じている。さらに、他教科での学習について、90%の児童が「(とても)役に立った」と答えている。具体的には、生活科では、「発表する(55.8%)」「お話をする(55.1%)」「お話を聞く(53.8%)」等に役立ったと実感している。総合的な学習の時間では、「話し合いをする(66.7%)」「活動の計画を立てる(64.1%)」「発表をする(62.1%)」等に役立ったと実感している。このように、学年のつながりや教科間の連携を意図して単元構成を工夫することで、児童は前学年までに学習したことや教科で培った知識や技能を生かして学習を深めていくことができた。

3年生では、社会科との関連や生活科と総合的な学習の時間のつながりと系統性をもたせた単元構成をしたことで、大蔵と八幡東西区のまちの様子を比較し、大蔵のまちの特色をつかみ、調べたい課題を明確にすることができた。また、曾根東小学校との交流を位置付けたことは、大蔵のまちと曾根東のまちを比較するという視点をもたせることにつながり、改めて大蔵のまちの特色やよさを実感させる上で効果的であった。

4年生では、国語科との関連を図り、調べたことをまとめる活動を位置付けた。それにより、国語科で学んだまとめの仕方を生かし、自分たちが調べたことや自分の思いを資料や原稿、新聞を使って短時間で効果的にまとめることができた。アンケートの結果からもほとんどの児童(94%)が教科等の学習が総合的な学習に役立つと答え、教科関連のよさを感じることもできた。

6年生では、国語科との関連から、自分たちの進める「大蔵のまちの魅力」が相手の要求や条件、思いに合っているのかという視点で見直し、アンケート調査という客観的な資料を用いて整理分析することができた。その際、魅力だけでなく願いや希望についても調べた。このことは児童が気付かなかった大蔵のまちの魅力やよさに気付くと共に地域の方がこれまで大切にしてきた思いや願いに共感したり、尊敬や憧れの気持ちをもったりこれからの大蔵のまちを児童に託したいという気持ちを感じ取ったりすることにつながった。また、地域の一員として今の自分や将来の自分にできることを考えるという地域への愛着の気持ちを育てることができた。

② 一人一人の気付きの質や表現力を高めるために、各教科・領域での言語活動を生かし、手段・場・方法を工夫しながら情報を発信させることを通して、コミュニケーション能力を高めることができた。その結果、大蔵のまちの魅力やよさに対する多様な見方や考え方を広げ、深めることができた。

生活科でも、コミュニケーションを軸とした活動を通して、友達のよいところに気付いた児童は98%もあり、コミュニケーションによってお互いの気付きを共有することで、すべての児童(100%)が「いろいろなことを見付けたり、気付いたりした。」と答えている。

1年生では、教育活動全体を通して、聞いたり話したりする機会を捉え、自分の思いを伝える学習をしてきた。その結果、伝える場所や相手の人数、活動の内容等に応じて、伝え方を工夫することができた。このことは、ほとんどの児童(89.8%)が、「他教科での学習が(とても)役に立つ」と答え

ていることから分かる。朝の会のスピーチで気付いたことを話す、公園で話をしながら遊びを工夫する、アドバイスし合い試行錯誤しながらゲームをつくる、活動を振り返り絵や文にまとめ発表する、お相手さんに招待状をかく等、様々な場や方法で表現し伝えることができた。(資料31)



資料31 お相手さんに伝える

2年生では、地域の人との関わりを繰り返し行ったことで、地域への親しみや愛着をもち、進んで人と関わることができるようになった。探検してよかったことをアンケートの結果を見ると、「まちのことを知った。(27%)」「知らなかったことを知った。(15%)」「知らない人を知った・話せた。(12%)」等、伝え合い交流することで、新たな発見をしたり、自分の見方・考え方を広げていくことができるようになったりしたことが分かる。

総合的な学習の時間では、各教科・領域での言語活動を生かした話し合いや発信の場を探究の過程の中に位置付けた。その結果、「友達と協力して活動したり、話し合ったり、発表したりできた。」と答えた児童は93.5%にもなり、思考力や言葉の力の高まりを実感することができた。また、総合的な学習の時間の学習を通して学んだことに、友達と協力することや話し合いのことをあげている児童も多く、コミュニケーションによって人と関わって学習することの大切さも学ぶことができた。さらに、そのコミュニケーションを軸にして大蔵のまちや人を調べたり、友達といっしょに学習したりすることで、自分の考えが広がり、多様な見方・考え方ができるようになったと感じる児童は89%にもなった。

3年生では、調べたことを曾根東小学校の3年生に分かりやすく伝えるために、国語科との関連を図りながら、表現内容や表現方法の工夫をしたり、互いの考え等を交流したりする場を設定した。活動を通して、児童は、「話し合いをする(78%)」「友達にアドバイスをする(39%)」「発表をする(69%)」等に活用することができたと答えている。このように、学びの共有化や相互のアドバイス等により、表現内容と表現方法に深まりが見られた。そして、そのことは大蔵の人・もの・ことに対する見方や考え方を深めることにつながった。

5年生では、児童の様々な体験活動から得られた情報や個々の気づきを基に、互いに学び合うことを重視した。その結果、気づきや発見の共通点に気付いたり、複数の考えを関連付けたりすることができた。また、学習の目的に合わせ、集めた情報や様々な意見を整理したり分析したりする学習を位置付けることで、児童の思考を高めていくことができたと考える。このような学習から多くの児童(88%)が、「自分の考えが広がった」と答えており、探究的・協同的な学びが自分の考えが広がり、多様な見方・考え方につながることを実感させることができた。

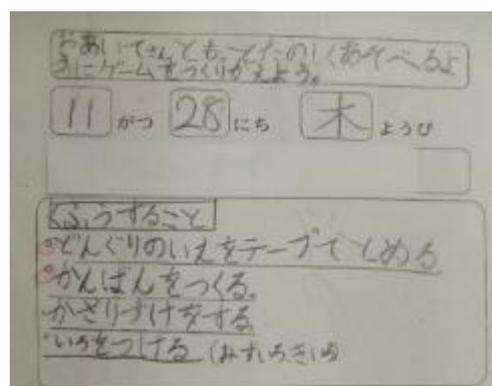
### ③ 学年で付きたい力を明確にした評価規準を設けて適切な支援を行い、指導と評価の一体化をさらに図っていくことにより、自己の高まりや成長を実感し、学び続けようとする子どもが育った。

各学年が系統と段階を明確にした育てたい資質・能力(P12資料23)に応じて評価規準を設定し、地域の方々等の外部講師からの評価の場も指導計画の中に位置付け、多面的に児童の評価活動を行ったことにより、生活科では、「4月と比べてできることが増えた」とすべての児童(100%)が感じることができている。総合的な学習の時間でも、多数の児童(91%)が、共同して活動や発表することができ、考えを広げることにつながったと感じている。

1年生では、評価の観点に具体的な児童の姿を入れ、毎時間の評価をし、次時の指導に生かすことができた。前時にかいたカードや写真、作品、発言等を基に評価し、次時の活動の確認をしたり、助言を

したりしてきた。特に、本時では、カードに印を付け児童とともに活動の確認をしていったことがスムーズな活動につながり、児童が安心して意欲的に学び続けることにつながった。(資料32)

3年生では、「生活科・総合的な学習の時間大蔵プラン」、  
「生活科・総合的な学習の時間の目標 育てたい資質・能力」を基に、学年で付けたい力を明確にした単元全体の評価規準、各学習過程の評価規準及び評価の観点を設定し、評価を行った。その際、行動観察、発言分析、ワークシート分析等の教師による学習評価、振り返りカード、ポートフォリオ等の自己評価、友達や保護者や地域の方等による他者評価を適切に組み合わせながら評価をした。その結果、児童の変容を多面的に見取ることができた。単元のまとめの段階では、個人ファイルや作品等でこれまでの学習を振り返ったり、学習を通して学んだことをカードにまとめこれまでに書いた自分のカードの内容と比較したりした。これらのことで、大蔵のまちに対する自分の見方や考え方の広がりや深まり、思い等の変容や自分の成長を実感できた。そして、ほとんどの児童(92%)が、地域の一員として今後の地域を大切にしていきたいと考えることにつながった。



資料32 カードの評価

6年生では、自分たちの思い描く未来予想図から、できることを考え、互いの考えを交流する場や地域の方にアドバイスをいただく場を設けた。そのことで、大蔵のまちに対する見方や考え方を広げたり、自分の行動を価値付けたりすることができた。学習後のアンケートでも「大蔵のまちが好きになった。(92%)」「大蔵のまちを大切にしていきたい。(94%)」と答えていることから分かるように、児童がまちづくりの在り方を地域の一員として考え満足感や成就感を味わうことを通して、地域に対する愛情と誇りを深め、今後もまちづくりに参画していこうとする意欲をもつことにつながったと考える。

6年生では、自分たちの思い描く未来予想図から、できることを考え、互いの考えを交流する場や地域の方にアドバイスをいただく場を設けた。そのことで、大蔵のまちに対する見方や考え方を広げたり、自分の行動を価値付けたりすることができた。学習後のアンケートでも「大蔵のまちが好きになった。(92%)」「大蔵のまちを大切にしていきたい。(94%)」と答えていることから分かるように、児童がまちづくりの在り方を地域の一員として考え満足感や成就感を味わうことを通して、地域に対する愛情と誇りを深め、今後もまちづくりに参画していこうとする意欲をもつことにつながったと考える。

6年生では、自分たちの思い描く未来予想図から、できることを考え、互いの考えを交流する場や地域の方にアドバイスをいただく場を設けた。そのことで、大蔵のまちに対する見方や考え方を広げたり、自分の行動を価値付けたりすることができた。学習後のアンケートでも「大蔵のまちが好きになった。(92%)」「大蔵のまちを大切にしていきたい。(94%)」と答えていることから分かるように、児童がまちづくりの在り方を地域の一員として考え満足感や成就感を味わうことを通して、地域に対する愛情と誇りを深め、今後もまちづくりに参画していこうとする意欲をもつことにつながったと考える。

#### ④ 地域のひと・もの・こと・自然に深くかかわらせ、大蔵のまちの魅力やよさに対する多様な見方や考え方を主体的に伝え合い発信させながら、3つの手立てを工夫することで、子どもたちの地域に対する愛情と誇りが一層深まった。

児童は学習をしてよかったこととして以下のことをあげている。生活科の1年生は、1対1の関係で関わった杉の実保育園の「お相手さん」といっしょに遊ぶことができたことや喜んでくれたことを、2年生は、大蔵のまちのことを知ったり、すてきを見付けたりしたことを学習の成果と捉えていた。総合的な学習の時間の3年生は、大蔵のまちの人々の優しさやこだわり等、4年生は、たくさんの年長者の存在や思いと支えている方々の優しさや思い等、5年生は、川を中心とした自然の大切さや地域の方々の川に対する思い等を知ることができたこと、6年生は、大蔵のまちの歴史やまちのよさを再発見できたこと等を学習の成果と捉えていた。

このように、児童は大蔵を学びの場とした探究的な学習を通して、大蔵のまちを見つめ直し、よさや特色に気付いたり、理解を深めたりしながら、大蔵のひと・もの・こと・自然に愛情を深め、大切にしていこうとする気持ちをもつことができるようになってきた。生活科の学習を通しては、ほとんどの児童(98%)が「大蔵のまちや人が好きになった」と感じている。総合的な学習の時間を通して、ほとんどの児童(96%)が同様に「大蔵のまちや人が好きになった」感じている。さらに、「大蔵のまちをこれからも大切にしていきたい」と思っている児童も96%に上る。この結果からも児童の地域に対する愛情と誇りを一層深まったと考えることができる。

4年生では、大きく3つの伝え合いの場の設定した。1つ目は3回の交流の感想を伝え合う学級での交流、2つ目は2回の交流後の年長者とのふれ合いでの成長や困っていることを出し合う情報交換会、3つ目は3回目の交流の後に年長者や支える人の思いをまとめた新聞発表である。また、新聞発表後の話し合いには、「ふれ合い大蔵大作戦」を支えてくださった芳賀さんにも賞賛していただいた。これらの繰り返しの伝え合う活動を通して、児童は年長者や年長者が多く住む大蔵のまちに対する思いを深めていくことができた。(資料33)

**S児の作文**

わたしがこの学習をして一番に残ったことは、年長者の笑顔になる回数が一回目より二回目、二回目より三回目とどんどん増えていったことです。しかも、前は笑顔を見て何も思わなかったけど、今はとってもうれしい気持ちになります。

わたしは、まちで年長者と話したことは、なかったです。この学習で年長者の家に行った後、まちで年長者に声をかけようとしても勇気が出ませんでした。友達に「こんにちは」と最初に言えばいいよとアドバイスをもらい試してみると成功しました。

(中略)

年長者の方は明るくてとってもやさしい方でした。それも井崎さんだけでなく他の方もそうでした。私の周りには、年長者を支える人がいっぱいいることが分かりました。わたしも、もつともつと声をかけをして、大蔵の年長者を支えていきたいです。

資料33 学習後のS児の作文

5年生では、学習後の感想で「川を守る会の人々は、みんなの大好きな大蔵川をみんなで協力してきれいにするためにできたことが分かりました。」「私たちは、やさしくてすてきな人々が大蔵にいてほこりに思います。これからも大蔵の人々みんなが、大切な大蔵川をみんなで守っていきたいです。」等と述べている。このことから児童は地域への愛着と誇りを深めることができたと考える。また、全児童(100%)が「これからも大蔵のまちを大切にしたい。」と感じており、その結果からも、大蔵のよさを共有することができ、児童に地域に対する愛情と誇りを育むことができたと考える。

## (2) 今後の課題

### ① 他教科等との関連や生活科と総合的な学習の時間のつながりを明確にした単元構成を工夫することについて

生活科の1年生では、季節の変化に合った取組が必要である。今年の秋は、遅く来て短かったので、短期間に集中して取り組む必要があったが、諸事情で11週にわたる学習になり児童の意識をつなぐことが難しかった。また、杉の実保育園とは年間計画を立てて交流をしているが、天候や季節による変更ができにくかった。そのためには、保育園と小学校のねらいを双方の職員が理解し合ったり、交流の振り返りをしたりする機会を設け、ゆとりをもった柔軟な交流計画を立てる必要がある。

2年生では、内容項目が指導要領に記されているので、国語科や図画工作科、道徳等他教科等との関連を図って計画して実施した。しかし予定の時数では不十分だったので、より一層指導計画を綿密に組むこと、他教科との関連を図ることなど、指導計画や内容そのものを見直す必要がある。

また、生活科と他教科とを関連付ける際に、各教科の目標とどれだけ合致しているかを考える必要がある。

総合的な学習の時間では、大蔵のまちのよさをより実感することができるようにするために、人との関わりを中心に単元構成を考えていく必要がある。また、学年によっては、年間70時間の単元計画をいくつかの単元に分割し、発展的に学習が展開できるようにすることも考えられる。具体的には、第1単元では、他教科等との関連や生活科での学習を生かしてその学年で必要な学び方を学ぶ短時間の活動を行う。第2単元では、前単元での学び方を活用して課題の解決に向けた探究的・協同的な学習を行う。第3単元では、身に付けた力を発揮させ児童自らが設定した発展的なテーマを追究していくような学習を行う。このような段階的な学びになるような単元構成をしていくことは、児童の学習意欲の持続化、体験活動の精選や時間確保にもつながると考える。

## ② 各教科・領域での言語活動を生かし、手段・場・方法を工夫しながら情報を発信させることを通して、コミュニケーション能力を高めることについて

生活科では、「伝え合う活動」を充実させなければならない。今回、グループでの探検後の発表会を少人数でグループを組み、ポスターセッション形式で発表を行った。2、3回目の探検後も同じ形態で行ったため、やや子ども達の意識にマンネリ化が感じられた。伝える活動の効果が表れ、子どもの意欲の持続や高まりにつながるようにするために、様々な形態で伝え合う活動を行うとともに、児童の考えを引き出し、気付きを高めるワークシート、伝え合う活動の方法等の改善をしていくことが必要である。

総合的な学習の時間では、児童の学習を生かしていくために、各教科との関連についてさらに見直し、それぞれの教科のカリキュラムとの関連性を深めていく必要がある。具体的には、調べたことを分かりやすく伝えるために社会科や国語科等との関連を図ったが、今後はどの場面でどのように関連させていくのか等の効果的な関連のさせ方や交流の場や方法の工夫が必要である。併せて、情報を整理したり思考を深めたりできるようなワークシート等の工夫も必要である。

## ③ 学年で付けたい力を明確にした評価規準を設けて適切な支援を行い、指導と評価の一体化を図っていくことについて

本年度は、地域の方への情報発信や交流を通して、意見や賞賛等をいただく簡単な外部評価を取り入れた。評価活動は、児童に活動に対する自信をもたせ、地域の一員として大蔵のまちの在り方を考えさせたり、まちづくりに参画する意欲をもたせたりする上で効果的であった。そこで、評価規準を基にさらに自己評価や友達からの他者評価の組み合わせ等を工夫することを通して、より一層児童自身が自分の成長を感じられるような評価の方法を考えていくことが必要である。

また、指導と評価の一体化につながるように、ねらいや評価規準を踏まえ、計画的な支援の在り方を工夫していかなければならない。さらに、具体的な児童像を基に、ねらいに近付くためのワークシートの工夫や支援等をきめ細かく行い、児童の探究意欲を効果的に持続させていくことも必要とされる。

## ④ 次期（第3期）の研究について

「大蔵プラン（学校カリキュラム）の作成と実践」「各教科の言語活動を生かした情報発信を通してのコミュニケーション能力の向上」「学年で付けたい力を明確にした評価規準を設けての指導・支援と評価の一体化」の3つの手立てを柱にした取組を行った。来年度からは今までの実践を基に、大蔵プランや本年度作成した「生活科・総合的な学習の時間の目標や学習内容、育てたい資質・能力」の見直しと修正を行いながら、以下の4つを視点として、新たな研究構想に基づいた第3期1年次の実践を進めていきたい。

- 1 70時間1単元の構成を見直し、目的を絞っていくつかの単元に再構成する。
- 2 教科の学力向上を加味した研究にする。
- 3 オンライン校として、「大蔵モデル」を明確にした提案を行う。
- 4 指導案の記載内容を焦点化・簡略化を行い、見やすく分かりやすい形式にする。

## 《参考文献》

- ・ 文部科学省『小学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）』日本文教出版株式会社 平成20年
- ・ 田村 学 著 『いのちを育てる総合学習 全6巻』童心社 平成20年
- ・ 田村 学 嶋野道弘 著 『これからの生活・総合』東洋館出版社 平成21年
- ・ 無藤 隆 著 『小学校教育課程講座』ぎょうせい 平成20年
- ・ 福岡教育大学研究開発プロジェクト 著 『国語・社会・算数・理科・生活・総合・外国語活動における言語活動の充実』 国立大学法人福岡教育大学 平成25年